





釈迦は地下

其後釈尊乃西母摩耶夫人の胎に宿りて三子大平世界うちやうむじの  
あついろやうれ苦とするのまゝ海を渡らんといふも  
ひまゝんとたれゆゑのまゝをわゝぬ人母十二  
年がわひびくうゝまはひ一柱のわとがまゝの  
光のとなり給ひて三子大平世界うちやうむじの  
のまゝまで照して西らんどもまゝ母摩耶夫人  
たうのまゝよじまはひまゝひとあらんて四子  
子うらと利奥一也切利天へのかり給らんとい  
給んとい道たゝまゝとて釈尊と天へのかりま  
とて道とゆゑとてまゝそのか道たゝまゝとて



Handwritten characters at the bottom right of the page, possibly a signature or date.



けう外道<sup>ぐわいどう</sup>のいひびきまねびきうなり其  
中母志んづう外道といふまねのせんとせむ  
此のかりて三めづりせむまねひて一万余  
三まんのごとててめめあて四方ゆき  
の志こと出でてくう園<sup>やま</sup>なるく一切お生と  
なるまめめとらその時四天王母ままま  
てこれ中母大自在天神とくあつ國鹿野  
苑<sup>えん</sup>ままめめが釈迦<sup>しやくか</sup>の西まへまありけゆと  
まねと釈迦<sup>しやくか</sup>とくまへま二百万人のら  
うられ中母志んづう身一れ目連<sup>くわんれん</sup>者<sup>しや</sup>まけゆと  
修り釈たうのま天へのかりて母まやぬんと

てまうんとまのい外道<sup>ぐわいどう</sup>のまのつとまづりく  
道<sup>どう</sup>とまうらうまめまのの路<sup>ろ</sup>く  
まへうの路<sup>ろ</sup>くまめまのまののかり地<sup>ぢ</sup>  
と現<sup>げん</sup>八百ゆきまのまのまのま  
に四万れう一田<sup>でん</sup>のまのまのま  
八まんのまのまのまのまのまのま  
外道<sup>ぐわいどう</sup>のまのまのまのまのまのま  
てまのまのまのまのまのまのまのま  
りりその時<sup>とき</sup>のまのまのまのまのまのま  
物利<sup>ぶつり</sup>天へのかり路<sup>ろ</sup>くまのまのまのま  
しゆまのまのまのまのまのまのまのま



りんぢ也とありて、シも子も解らじうシも人ぶ  
とありて七日とシも母よとられそまうりてお  
むけうらんみよ解らじうシも人ぶと  
とめ難シ約シ若シ約十二年と経て佛となすれ三  
とありて六つとめてたうの天に母のじまれ解ら  
事とありてシも事ありてゆとの解らとこれ  
りシと摩シ部シ夫人シとありてシも事ありてゆとの解らとこれ  
まシりシとされたいとありてシも事ありてゆとの解らとこれ  
人の天人の依りてありてシも事ありてゆとの解らとこれ  
とありてシも事ありてゆとの解らとこれ

釈シをシたシうシにシんシとありてシも事ありてゆとの解らとこれ  
ひらりその中シは我よれ釈シをシ佛シといふなりとありて  
うとありてシも事ありてゆとの解らとこれ  
う解らとありて佛シといふての解らとこれ  
とありてシも事ありてゆとの解らとこれ  
が中へむとありてシも事ありてゆとの解らとこれ  
子とありてシも事ありてゆとの解らとこれ  
おがシりシて二十四人なりとありてシも事ありてゆとの解らとこれ  
の中へむとありてシも事ありてゆとの解らとこれ  
ありとありてシも事ありてゆとの解らとこれ  
へたりとありてシも事ありてゆとの解らとこれ























生く世に乃りんらんぞなる結ぶりのささる  
うがんとすういまんうあんまんの釈迦如来と  
子にりらなりあれゆゆあまゆよとひくそて  
はり結ぶる中母いあしてけいびせ死とび  
たうんうわう結んて釈迦如来の結んてあ  
地の三字とたのり結んて信をひきとあま  
うとてまうての結んてあわくれは結ん  
よまのあは地の三字とてめ結んて釈迦  
らもあまわさじと結んてあ結んて釈  
てのあまうたんとあひんあてりよ本八十里  
あむいそらそのあまうていせうりのあ

あいゆて死せびとらうなり一校一葉のゆ  
かしのとてその本一本のゆと事四十里  
ひうらもあまやんあんのあま二葉はあ  
りまてそのあまうて四十里あ  
らんてあまやんあんのあま二葉はあ  
ゆとらそのあまうて四十里あ  
むたうれいらんあまひうあうてあ  
たみとらんあまやんあんのあま二葉はあ  
あうてららんあまうて四十里あ  
しあひうてあまのあまひけまをちまうあ  
らうてあまひとあまのあまひけまをちまうあ



くらくして松くも也松よはいうう四よゆせんぞう  
 志也のりも母そもむま佛よのまれりこにま  
 くはひしてそやとをれうも松よのそは阿難  
 志者志やりの大目連大志やう文殊<sup>えんじゆ</sup>たそ是と  
 あや一の佛よ一松くういぬいれあつこつは  
 そこも松んころまおうも松よぞや佛より外り  
 何ゆつころうしと思ひ松よづさ母くいねん  
 松やんとたつひ一なまを松言<sup>まこと</sup>ての松く  
 じうけ國よまうありなまなくして天よりひ  
 松神<sup>まつかみ</sup>よ松つそ時<sup>とき</sup>松懐<sup>まつかみ</sup>姓<sup>せい</sup>一一人の男子<sup>おとこ</sup>と  
 う松つり十三<sup>じゅうさん</sup>歳のうそ父大まわのう痛<sup>いたみ</sup>とうあ

松ひてまうらま松よなまそらむあつ醫師<sup>いしや</sup>の  
 一うま松くくまういぬそらむたそぬ人のま  
 う松あきて松く一まう一と一ううまに  
 世回とらわ松たさういそらそらうのほし  
 と一松母くたんれまよそ松とそら一あて  
 わ松一そむま松ていこそららたくうう事  
 たり一と母れ松母<sup>おとこ</sup>一松よま一やらうつとまや  
 一や松つうのうそらりあつ中<sup>なかつ</sup>な松む誰<sup>たれ</sup>松ま  
 人の世<sup>よ</sup>松一ことまぬま松ん松つこつら松て  
 中とあらんうら松くたび松く父大まれ松  
 あんと一松くたさうい母れ松ゆ一松つら



け時を子おぼへしりけりい春養れありき  
 身命とわしむるうひりわし心あはらう  
 れうがとかりあんと思ひてつうういぬいで  
 又の太王母下とらうくもりけりちを是と  
 ぬくし路ひてしうるもあんなりけりその  
 とま又ちをたまよと尋ねる母の名なることあ  
 しむびのものをけりびあるちけいしを  
 一時天よあはれ地よあし難くその路くも  
 らく若又とらうくたまひあはれども子れあは  
 とあしし命とたもうりあわりといひまごあ  
 とこ道ありしれ中のちりも我病の麻り

毎てまよのたまひのゆとそまあし思ひつ  
 母柳なりなくぬ路ひてい我のまよあま  
 せんとおしと路くまよ思ひえまう  
 けごくししたましくまうけそまうりま  
 ちみたるまよの世まぞりこを思ひ  
 し母やう母なくありなんまのけしは佛よ  
 新りまらるるまよ二人あてたまひ一人を  
 しまたまのまよんとまやうわひらあれま  
 ありまらるるまよのまよいしけいせんま  
 りとよまよとまよとわが善徳とまよひ路  
 ひりつを時れまよとらうけらなるその時



















あつまる大なるまゝくかまの西よりあつれそ  
 かしとそそまうりせし心くそくそ阿  
 難とそそめなり一切の衆生よほひくそめ  
 ろく我今涅槃よ入ぬるの終よけ西よまそ  
 き流るるれそりせんひやちせうんぞん  
 大なるくそくそく善菩薩やうりそく  
 くさひびるあしんれむ人いりそんそく  
 どそそ移んそりや西移ん人のそそいおあそ  
 西よ集こそいあそそりよほそそいそ  
 なしそ時たりん第一の阿難そ老ハ地よすら  
 うそハ佛の西うそよけそろのたれそそあゆり

終あつひいんそそそそりて佛の西  
 そそ入終よ或ハ移そそそそそそそそそ  
 ぶうが川身そそそそそそそそそそそ  
 て大地よたおそあつひいそそあびそそ  
 ひそそまうり或ハそそそそそそそそそ  
 あつひいそそそそそそそそそそそそ  
 そあつちつひいそそそそそそそそそ  
 かなるそそあつちつひいそそそそそ  
 なくそそ移んよそそそそそそそそそ  
 とわひそそあつちつひいそそそそそ  
 そそそ佛の西涅槃とそそそそそそそ



乃きのなごうあめれわーみまことなるびてんごい  
 志やれきのい殺らうんまたまおれ二月十五日の  
 月の不か重うそくさうくとみ平二おいのなま  
 母かた他乃多ち色うりるまがり又りうらとねりよぞ  
 ましまあ月白そうりけりころうぞくた地も花  
 とくくしてまらりけりよめくろあーとわつりあく  
 さう志やれきのいこと人そあやまら事そなうさ  
 そういぞ三十二ゆあゆ人のそとぞくれ志由ま皆  
 もんちやういごうゆくうも人の根よまづいあひ  
 授だ授何の文もころりよそのととて七日うらさする

てなうまままのふまそくと花うれまのそをむ  
 とびりが菩提樹の葉もろくハい江ね盤えんと志川  
 こくこれく志やんたんまゆとい倣いようまさうんや  
 志ひいごりの志うーあづうわんまいたいたいこと  
 なごうあーいさうあや志日さうま地ようまいく  
 志やういれや志ゆくきんううらまらひいくれ  
 志ひいく又りれ世の佛のさうううととれうん  
 志ういさそのさううい百い里りれないまいほいまたいうい  
 まい川いさいいたいひいれい山いのいひい子い屋い乃い志い母いゆいうい志い  
 こいまい人いういらいもいあいるいぞいういのいきいんいらいくい志い人の風  
 母いちいるい花いといらいるい年いごいのいまいまいいいあいりい人いらいういの



きんぐく月と又らん然の事とまうてか  
物来て夜移らんよ入路とともぬらたよひつる  
うごうとぬるそともあうらん事かうとま  
りや目連ハ仏よりえたよあつて一歩ひておん  
のふしとみこくまうり路りびと業ハ船は  
山よ路り路ひよりえとまごよはれとせん  
の勤つことそとめとあくたとはあまの  
うらよ路りあまらり路りあまらんうらと  
けのそまらま又とぬらひのうひとら  
てととらよりのかくて七日あまよと遊業  
者山とおまら路りよとまら路りよわかやうの併

乃西涅槃なり路りよとんぬて山と物路り道よ  
とや西移らんうとひ路り人候とたごよ  
とよと善の道と遊業とあ百人の西身よと  
色路りまびあひてそとび路りらうさひぐた  
よとひさうとそ路りひてたうくらとま  
うあ入路ひひ道とたよと遊業れあり路りよ  
みとらと又とらのおとあられたう遊業ハと  
念の中とれととこよとれ西指よらうづと  
涅槃乃まよひとぬづとたびと路りよとら  
うこはうとらとんあよび下ハあひれとよ  
ぬまぞとらと路りひてとらとぬて夜釈とれ



西よりうらうらわがももらん西指乃あことをむく我  
 孫よづさとの孫つてそ阿難の孫ひかりのいよ  
 してたやまぐ西指乃あことをむくむさうあまむ  
 うびとの孫へん世業のあーさうあやわさよ佛  
 のつらまことあつてあつてなる西まごこと今て  
 ちがももさや孫へんと天にああさ世よあしてあの  
 とーう孫ひまごのそさ佛世業とあられ  
 れがめつてあつて西まんのあことひくさ孫  
 るむさあまうごんれ西まへんあわがわうい  
 しくして金指れうらにまぬかやうしてあ  
 んれ孫よ世世の西まれまうとひくさ世業と

西よりうらうらわがももらん西指乃あことをむく我  
 孫よ世業ひともまむそく心佛れくくと孫  
 へん孫よ母摩耶夫人はたうのまへんは三十三  
 のわー帝釈の孫よそさうんまうれまのうく  
 かのうんあまごくまごくも孫ひうらが佛を  
 ばびようらうとわごらさ孫よさうんまうらうり  
 八万ゆまあんびんそり孫ひくさうてまんとく  
 乃まんうとわくそまうの孫あうれくく三  
 累のた生れまるとまうらうとあまわらまゆと  
 こうらうとまうらうと孫ひくさうらうと皆これ  
 大うれせらうらうらうの言後母あうらうらう











のは八坂二十又年よきまひてちやうりんちやうりん  
 後よそのささらうんちやうりんちやうりんちやうりん  
 いよまゝしゆさといはたうれやとて納<sup>おさめ</sup>てうのよ  
 とうのくひううんをむくさたうれうら  
 入後とのけんむ阿難志がくく釈<sup>しやく</sup>をとらんじ  
 ちやう後む則<sup>すなは</sup>ぐんでうごのわれよとせとあ  
 けて入七やうれやよよりりつふや一後よ  
 みくうんちやうれ云はは座よのわり後ひねた  
 一後<sup>ちやう</sup>志後らんよ六佛ハ四并八番教れうら  
 四にの了とあつとるんちやう志後ひ一也そのと  
 くなう一ととのくのけひれむ阿難<sup>あなん</sup>のいこ

ちやよなびびとて一代<sup>いちだい</sup>聖<sup>せい</sup>教<sup>きやう</sup>と説<sup>せつ</sup>後<sup>ご</sup>よその  
 らうん<sup>らん</sup>進<sup>しん</sup>座<sup>ざ</sup>よりたつと阿難<sup>あなん</sup>と佛<sup>ぶつ</sup>のどくわが  
 こちりて三<sup>さん</sup>此<sup>し</sup>のゆまんとなり後よ一よ阿難<sup>あなん</sup>佛<sup>ぶつ</sup>  
 子<sup>こ</sup>後<sup>ご</sup>よとうごひ二よ六<sup>む</sup>釈<sup>しやく</sup>志<sup>し</sup>阿難<sup>あなん</sup>とぐん  
 後<sup>ご</sup>よとうごひ三<sup>さん</sup>母<sup>ぼ</sup>いたうの釈<sup>しやく</sup>志<sup>し</sup>のわりし  
 て説<sup>せつ</sup>は一後<sup>ご</sup>よやうごひくちとまたまふ  
 又<sup>また</sup>らんちやうれやと阿難<sup>あなん</sup>と一と今<sup>いま</sup>て  
 うさ後<sup>ご</sup>阿難<sup>あなん</sup>とあくうごごめて末<sup>ま</sup>代<sup>だい</sup>のれ生<sup>せい</sup>ま  
 ちよ利益<sup>りやく</sup>とべとつ後<sup>ご</sup>ひ一と子<sup>こ</sup>人のうわ  
 ひぐれははとちやうて書<sup>しよ</sup>後<sup>ご</sup>ひ一<sup>い</sup>観<sup>くわん</sup>り  
 ぶちやう山の石<sup>いし</sup>の観<sup>くわん</sup>雲<sup>うん</sup>よつちやうちやう山<sup>さん</sup>の石<sup>いし</sup>



すとく等母のまじりやちやうれねのえごいせうに  
 八ヶ山やまのたごうれ業えい也らうんら等母とうぼのま  
 耳みみもむだそく阿難あなんのせらわうとてまよりや  
 してらうんら一口ひとくち同母どうぼあかんとかうて曰  
 峰面ほうめん如海にがうみ月つきあま蓮れん花げ佛法ぶつぽう大海たいかい水流すいりゅう人阿難あなん  
 心こころとちやうとまなぶらうとまのくたのん等一  
 此阿難あなんといもまほひたは柞さく敷しき也なり如にがうみ業えいなるら  
 孫まごらん母はは入いれ終はつたさうとて等母とうぼの  
 ちやんらうごに候うけし終はつつう方あた便たとらうとく新あらたま  
 元生もとせいとけらう終はつひのう海うみは母ははのまらうど  
 り候うけてかご母ははのやうま由よし山やまの候うけ去さまうとく

く統ちゆう法ぽうと終はつより元生もとせいのまにま時ときを  
 今いまんわのまの世よ力ちからと元生もとせいれまんのまうとめた  
 ちやうとらんひをんのあつと母はは志しのり元生もとせい  
 の氣きをさす時ときのちやうとまのまらうま由よし山やまのわら  
 一ひと志しやうあつとまうつらんの風かぜよまなみ終はつらま  
 又またたんちやう皆みな是こゝろは候うけ也なりうつらんの入いれ職しやく又また是  
 ちやうとまらうれせらうちやう母ははあつひとちやう  
 ちやうとまらう終はつんのわらうつひまらうまらうとま  
 ちやうと終はつりしとまらうちやうちやう母ははしてせんめ  
 まらうしてちやうとまらうとまらうと終はつつり佛ぶつあつ時とき  
 元生もとせいれ若わからうらまてらうとまらうとまらう終はつん



夷金れんくくを頼あさや也なしくれかのとの  
そくせとわんらくまふ所のまやういねんおんじ  
てゆら事りなうせんんのりあうれ中よとん  
そまやうまんのさう百少くあやううんのそんは  
そあくゆくうてまうまうびぬぬに涅槃ねはん淨じやう云  
釈迦切地下を依る皆在右生一念心中

釈迦切地下終

寛永六年癸未年九月吉日

掃屋 源齋閑叔

新集持

何本釈毛  
打  
此  
此  
此



